



岐阜県で47年ぶりに開催された国内最大規模のスポーツの祭典である第67回国民体育大会は、9月29日から10月9日までの11日間、県内各地で競技会が行われ、世界新記録が誕生したり、ロンドンオリンピックで活躍した選手が数多く出場したり、高得点で岐阜県が天皇杯・皇后杯を獲得するなど、様々な記録や話題、そして大きな感動を残して終わりました。

ぎふ清流国体を終えて

ぎふ清流国体養老町実行委員会
事務局長 香川 満

軟式野球は、30日の午後、台風による降雨のため、試合は中止になり、当初、三日間で行われる予定でしたが、大会最終日の3日まで併せて9試合が行われました。3日に行われた5・6位決定戦では、岐阜県チーム

から10月2日まで、中央公園野球場とスマイルグラウンドで開催されました。

本町では、初めて国体競技が行われ、軟式野球（成人男子）が9月30日から10月3日まで、サッカー（成年男子、女子）は9月30日



が競り勝ち、大橋孝町長から表彰状が授与されました。また、サッカーは、降雨に関係なく予定通り8試合が行われ、女子の準々決勝戦では岐阜卓球チームが愛媛県チームを3対1で破りました。この試合の模様を高円宮妃殿下並びに典子女王殿下がロイヤルボックスから御覧になり、終了後、岐阜県チームの選手等に手を振って励まされていました。

国体では、約500人のボランティアの方々が登録され、大会期間中には受付をはじめ、清掃や記録写真撮影、弁当配付、駐車場等の係の仕事をしたり、来町する選手等に記念品として渡すため、アクリルたわしやEM石けんを作ったり、会場周辺にのぼり旗やプラントナーを飾ったりしました。また、園児や小中学生等がのぼり旗つくりや花育て等を行いました。

ぎふ清流国体は成功裡に終わりましたが、この場をお借りして、大会役員、競技役員、補助員、ボランティアの皆さん方のご協力にお礼申し上げます。



編集後記 この広報誌も今回で28号となりました。皆様が少しでもスポーツに親しみ、興味を持って頂けるようにと、広報委員会一同これからも頑張っていきますので、ご愛読の程、よろしくお祈いします。 広報委員長 伊東 国治

発行 2013年1月1日
発行者 (公益財団法人) 養老町スポーツ連盟
印刷 盛福印刷

第7回 養老新春マラソン大会

平成25年 1月20日 9時～各部スタート

受付 7:45～8:20 スポーツプラザ養老 玄関
開会式 8:30～ スポーツプラザ養老 多目的広場

コース スポーツプラザ養老(町民プール)周辺【表面参照】

部 門	距離	部 門	距離
1部 小学生男子(1・2年生)	1.7km	7部 中学生男子	3.5km
2部 小学生女子(1・2年生)		8部 中学生女子	2.3km
3部 小学生男子(3・4年生)		9部 一般男子	5.1km
4部 小学生女子(3・4年生)		10部 一般女子	
5部 小学生男子(5・6年生)		11部 シニア男子(40歳以上60歳未満)	2.3km
6部 小学生女子(5・6年生)		12部 シニア女子(40歳以上)	
	13部 60歳以上男子		

主催 (公財) 養老町スポーツ連盟、養老町陸上競技協会
後援 西濃地区体育協会、養老町、養老町教育委員会、中日新聞社



日独スポーツ交流25周年記念事業及び受入事業報告

7月27日(金)から8月10日(金)まで15日間、日独スポーツ交流事業として、ドイツ派遣団9名を受け入れました。

今年度は、養老町とドイツ・バッドゾーデン市がスポーツ交流を始めて25年目に当たり、記念式典や記念植樹等の行事が行われました。

ドイツ派遣団員の構成は、正副団長と高校生6名、それと、記念式典の準備の関係でドイツスポーツクラブ事務局のハインツ氏の9名です。(男6名・女3名)

記念式典の来賓としては8月7日(火)から8月10日(金)まで、アルテンカンフ・バッドゾーデン市長とスポーツクラブ会長代理のミース氏が来町されました。



日程は、町長・議会表敬訪問に続き、養老公園散策や町内の事業所見学で養老町の産業・観光を理解していただきました。また、本命のスポーツ交流では、町スポーツ少年団主催のキャンポリー大会を始め大垣養老高校のなぎなた部と弓道部との交流、空手スポーツ少年団や高田中学校の卓球部やバドミントン部とスポーツ交流しました。

日本文化体験では、書道・華道・茶道のほか着物や浴衣の着付けを体験しました。そして、

世界遺産である白川郷や高山市内を見学しました。

8家庭のホームステイ先との交流は、土日のホストファミリーでの家族との交流やドイツ派遣団員の作ったドイツ料理でのパーティーで交流を深めました。

25周年記念事業は、記念植樹や物故者追悼式、記念式典を行いました。記念式典では、町スポーツ少年団やバッドゾーデン市のスポーツクラブの功労者に感謝の品が贈られました。大橋町長から「交流が25年もの長い間続いているのをありがたく思います。今後も続けていきたいです。」と感謝の言葉がかけられました。また、両国の関係者が「次は50周年で会いましょう」と、この交流が長く続くことを希望していました。

